

系統樹

若い頃”クラシック音楽”至高論者だった私だが、歳老いて演歌をはじめ文部省唱歌にさえ涙もろくなってしまった。現在、我々を取り巻く”音楽現象”は多岐にわたり、細分化され、さらに”進化(?)”を遂げている。

初源の人たちの”感情”の眼ざめから”感嘆”の発語。幾星霜を経ていかにして我々は歌を口遊むようになったか。

唐の長安の街角で遊ぶ子供達はどんな歌を歌っていたのだろうか？
中世フランスの農民たちはどんな歌を歌いながら農地を耕していたのだろうか？
江戸の世、一膳飯屋のお駒さんはどんな歌を歌っていたのだろうか？

生命の種はDNA分析を経てかなり厳密に分類され”系統樹”としてその来歴を追えるが、音楽現象はどうか。

演歌の源は、明治期の民権運動盛んな頃の”演”説に端を発しているとか。
戦後の傑作歌、クレヨンしんちゃん”ダメダメの歌”の”系統樹”を誰か語ってくれまいか。

現代は新たな音楽史が真に必要な時代のような気がする。